

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	市民生活部
	課名	防災安全課
	係名	交通防犯係
	記入者	電話(内線) 281

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	交通安全対策推進事業				(3) 事業の 優先度	A	
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市			
① 事業の区分	主要事業				(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)			
② 施策コード	24302	(総合計画掲載ページ 83 ページ)		会計区分		一般会計				
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)			財源区分		市単独				
基本施策	2-4安全に暮らせる安心なまちづくり(防災・防犯・安全)			予算科目		款 2	項 7	目 1		
施策	③交通安全対策の推進			予算書上の		交通安全対策推進経費				
施策内容	2交通マナー向上と交通安全教育の充実			事業名称		(予算書 63 ページに掲載)				
(5) 事業期間		開始		年	月から	(8) 事務分類		自治事務		
	終了		年	月まで (		力年)	根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
市全体	市民すべてが交通事故の加害者にも被害者にもならない、安全で住みよい街づくりを目指す。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
交通対策協議会における事業を中心に行う。 ・各季の交通安全運動出陣式とキャンペーン ・小中学校等での交通安全教室 ・交通安全ポスターコンクール ・中学校自転車安全点検	全国的な交通事故の増加により市民の交通事故への危機感の高まりから交通安全対策の取り組みを実施した。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境、市民ニーズ等) や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
全国的に登下校時、児童生徒を巻き込んだ事故があることから、通学路における規制関係並びに安全対策等の要望が多くあります。要望に対しては、要望箇所を含む通学路等の危険個所の点検等を実施し、警察をはじめとする関係機関等との協議を進め、計画的に対策を講じている。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映		
実施計画								
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）		
事業内容		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度		
（１）事務事業費	事業費							
	報償費	423	423					
	需用費	506	399					
	役務費	37	0					
	委託費	3,256	4,016					
	使用料及び賃借料	16	16					
	負担金補助及び交付金	2,629	1,819					
	公課費	7	0					
	合計	6,874	6,673					
財源	国庫支出金（千円）							
	県支出金（千円）							
	地方債（千円）							
	その他特定財源（千円）							
	一般財源（千円）	6,874	6,673					
	合計（千円）	6,874	6,673					
	補助・起債制度名							

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	春・夏・秋・年末の交通安全運動	目標値	回		4	4	4	4	
		実績(見込)値		4	4				
	トワイライト・キラリ作戦	目標値	回		12	12	12	12	
		実績(見込)値		17	12				
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	交通事故件数	目標値	件		220	215	210	205	
		実績(見込)値		227	220	215	210	205	
		達成率		110.7 %	107.3 %				
	高齢者事故件数	目標値	件		57	55	53	51	
		実績(見込)値		59	57	55	53	51	
		達成率		115.7 %	111.8 %				
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	交通安全対策推進は不可欠である					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	警察及び交通関係団体との連携を図りながら行っている。					
	手段の妥当性	A	妥当である	各季(春・夏・秋・年末)において実施している。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	警察をはじめ交通関係機関との連携による人員配置のため					
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	キャンペーン活動は数か所だが、立哨や広報活動等は市内全域で行っている。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	人身事故は、昨年比若干減少しているため。					
進捗度	事業の進捗	A	順調である						
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
交通安全対策として、各季キャンペーン等による推進を図っているが、死亡事故及び高齢者のかかわる事故は相変わらず発生している。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
警察及び交通関係団体との更なる連携強化を図り、主に高齢者を対象とした啓発活動を行う。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減, 成果維持・コスト維持又はコスト削減)			交通事故防止対策のため、警察署や交通関係団体等との連携し、各種キャンペーンや交通安全啓発活動を強化し、意識の向上を図っていく。また、昨今多発している高齢者への対策強化が重要である。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				